





目を覚ますとそこは深い深い森の中だった。

先ほどまでは確か、会社に行くために、この森とは比べ物にならないくらいの人ゴミの中をかき分けて、朝から気が滅入っていたのだが、とうとうこんな幻覚まで見えてしまうくらいに疲れがたまっていたらしい。

いや、ここまでリアルな幻覚が見えるということとはもはや、疲れを通り越して、無意識のうち何かやば気なお薬でもキメてしまったのかもしれない。

そして目の前には見たことない美少女がいた。  
少女というのを見た目が少女なだけで、  
人を形容するその言葉は少し不適かもしれない。  
なぜなら彼女には長い耳と、俺の知っている人間の  
女性ではそんな破廉恥な服は着て歩く人など  
見たことがないからだ。



というよりこの少女、アニメや漫画でしか  
見たことがない、所謂エルフなのではないのだろうか。

あの…寒くないですか？

はあ…

…

あなた童貞でしょ

え……

うわキモ  
絶対童貞じゃん  
人間でその見た目だと20歳後半ね  
かわいいぞーwww

こ、このガキ…



ガキとは失礼ね  
私は人間でいう150年は生きてきた  
立派な大人エルフなんだから

この間読んだ小説ではエルフの時間は  
人間時間の約10倍なんて書いてたな  
ということはこのガキは人間でいう15歳か

やっぱりガキじゃないか

はあー？勝手に  
決めないでくれる？  
150年生きてきたって  
言ってるでしょ？

人間でいうとこの  
15年くらいだよ？

は、はあ？ちがわよ！

これだから童貞は嫌なのよ  
人がせっかく助けたやつたつていうのに  
お礼の一つもできないのかしら

確かに俺の体には布がかけられていた  
いいにおいがする

つて！におい嗅ぐなし！キモ！童貞！  
どうせ私の完璧なプロポーシヨン見て  
獣みたいに興奮したんでしょ？  
ほんと童貞ね

そ、そういうお前こそ  
しよ……処女なんだろ！？

そこで詰まるとかキモすぎw  
あんたなんかこれで十分なのよ



エルフは器用に俺のベルトを外すと  
ズボンとパンツをずらし  
ちんぽを露出させた

ば、ばか！やめろ！

ほらほらほら  
これが気持ちいいんでしょ？  
きーも

ムリッ♡  
ムリッ♡  
ムリッ♡

そういうとエルフは  
器用に足を動かし  
俺のちんぽを刺激し始めた

お、お前の足なんかには負けるか！

え、こんなん  
感じてんの？  
うわあ…

面白くなったのか、エルフの足が俺のちんぽにいやらしくはい回る時折足の指を器用に動かしかり首を刺激したかと思うと足の付け根と付け根を合わせ蜜ツボのような状態にし龟头をぱっくりとくわえ込んだ



うーけ♡うーけ♡

ほら♡♡♡いけ♡♡♡……

や、やめろ!!



.....

ほんとにイッてるし  
まじキモい

くそ……

あんたの童貞私の足に  
食べられちゃったねw  
うけるww



エルフは面白いおもちゃを見つけた  
子供みたいな顔でにやりとし  
その豊満に育った胸を両手いっぱい  
持ち上げたかと思うと俺のイチモツはエルフの  
いやらしい谷間にしゃぶられた

もしかしてこれでも  
いくんじやないの？





エルフは上半身を淫らに上下させると  
いよいよ何も考えれなくなる。

おちんぼおっぱいに  
食べられちゃったね☆

ほら!!

うた!!

うた!!

うた!!





このメスガキ……!!

はいまたまたあなたの  
童貞雑魚ちんぽの負けさW  
きやははW  
まじキモいW

びゅん  
ぐわん

ちよ…  
なんでまだそんなにでかいのよ！  
二回もあんなに出したのよ!??

こ、こんなので満足するわけないだろ！  
童貞の復活力をなめるな！

ふ、ふん  
それでどうするつもり?..

それは…  
こうだ！

エルフのバックをとると  
とろとろにとろけたその蜜ツポに  
自分のイチモツを挿入した



目の前がホワイトアウトするほどの  
強い快楽に挿れた瞬間動けなくなる

っっ!?

ほんとに入れるなんて…  
でもやっぱり童貞ね…  
そこから一歩も動けてないじゃない

く、くぞ!

なら…  
私から動いてあげる!!



エルフは自らいやらしく腰を前後に  
動かし始めた  
エルフの腰が自分の腰に当たるたびに  
ぱちゅんぱちゅんといやらしい  
メロティを奏でる  
エルフの肉ひだの一つ一つが  
奥へ奥へとイチモツを引き込めよう  
に吸い付いてくる

俺は負けない!!!

負けじとエルフの腰の動きに合わせて  
自分も腰を動かし始める

ひゃう!!!  
ちよ!!!  
や、やめ!!!





やあ.....

ああん.....っ

はあ.....

童貞.....

やんっ.....

んっ.....

やめよ！言われてやめる奴がらぬが...！

ふ、ふ.....

ふっふっ

んっんっ



やあつ……そごはダメ!!

いいや——♡  
童貞なんかは  
負けないんだから♡

やばいつ!!  
イイク!!

ごめんなさいしろ!!  
童貞を馬鹿にしてごめんなさいしろ!!

っ——

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ







ごめんなさいい……

わたしが……  
私が変わるかったからあ

や、やったぞ!!

勝った!

メスガキエルフにかつたぞ!

110!  
110!  
110!  
110!  
110!  
110!  
110!

俺がそういうとエルフは  
絶頂の快楽をこらえるかのような表情で  
無理やり口の端を吊り上げにやりとすると

な、なーんてね……

わ、私があんたごときの腰振りです……  
感じるわけないじゃん？





な、ないよ……

……

ふああん……

腰を軽く振ってやる

だ、だからもうおしまいよ

はっはっ  
はっはっ



嘘をついたな！

は、はあ！？  
ちよつと！  
やめなさいこのばか童貞！

俺はエルフの体を自分の  
真正面に持つてくると  
いやらしく口を開けている  
エルフの穴へゆっくりと  
自分のものを差し込んだ



恍惚とした表情はあらがうことをやめ  
快楽に身を任せたものの顔をしていた

俺はエルフの甘えた声を  
聴くと我慢できなくなり  
一気に腰を前後に動かす。

くっ……ああああ♡

はあっ、んっ……  
あんっ、はあ  
っふああああん♡



エルフの甘い声を聴きながら  
そのとろけた表情を見ていると  
さらに昂り、彼女の白くて柔らかな  
腰に自分の腰をぶつけるど、  
エルフは胸をたぶたぶといやらしく  
波打たせ、瞬く間に俺とエルフの  
結合部分からじゅぷじゅぷと  
いやらしい水音が生まれ始めた。

やあっ、ああん♡

出すぞ!!  
お前の中い……!!

きて♡♡  
あつつい童貞サーメン  
中出ししてネー♡♡

うんっ……!!







はあーはあー……  
もう大人を馬鹿に  
するんじゃあねーぞ？

ごめんなさい——♡  
大人を馬鹿にして  
すいませんでしたあ♡

# ヒロローグ

そ、その……

さつきは童貞を  
馬鹿にして悪かったわね

いいよ、もう。

これから大人を  
馬鹿にするんじゃないぞ？

は、はあ？

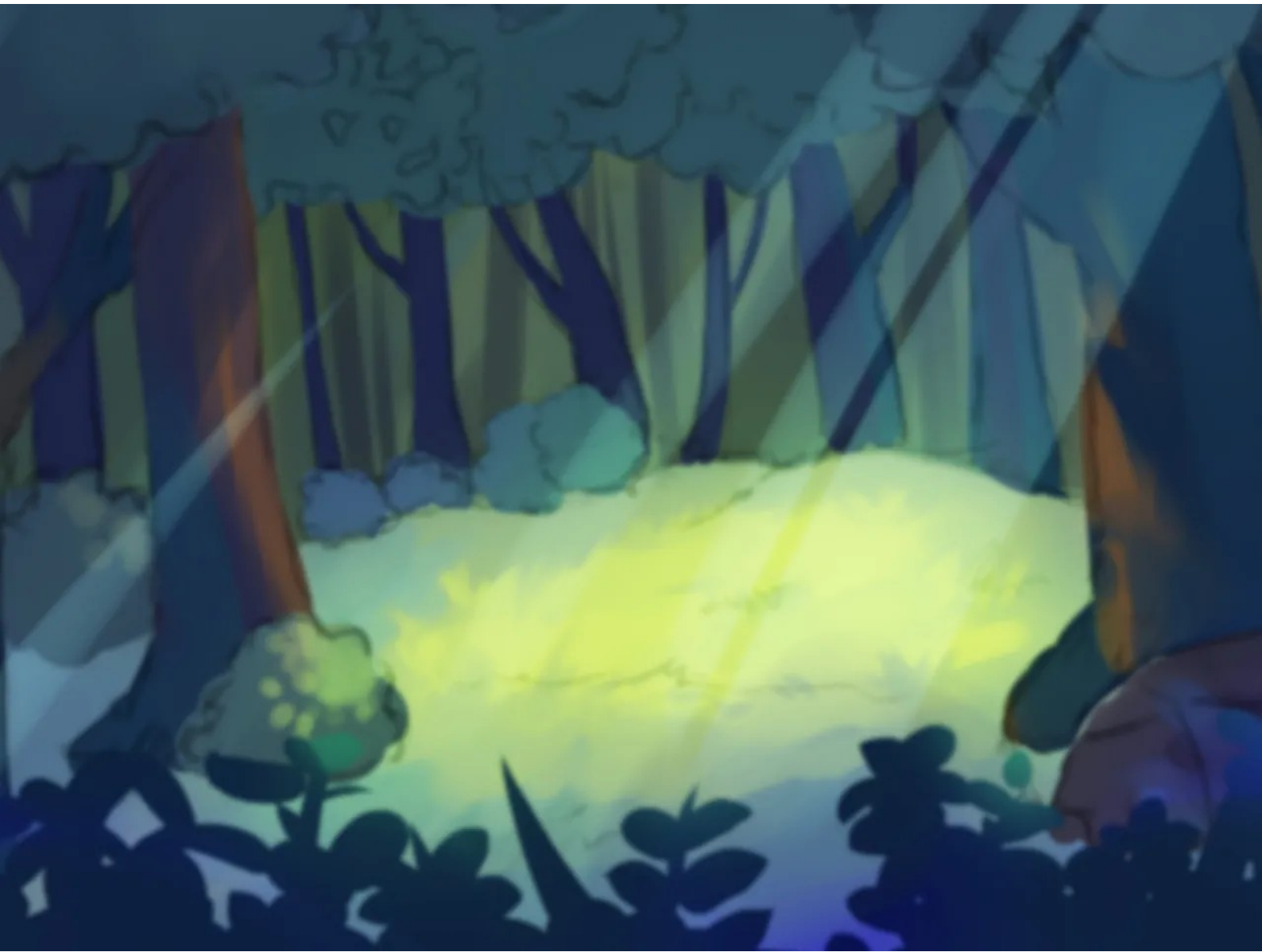
私は150年生きてんのよ？  
あんたの方が年下なんだからね！？

はいはい

はあーこれだから……。

まあいいわ。馬鹿にしたお詫びに、  
とりあえず街まで案内してあげるから  
ついてきなさい

そういつとエルフは歩き出し  
俺はその背中を追いかけた

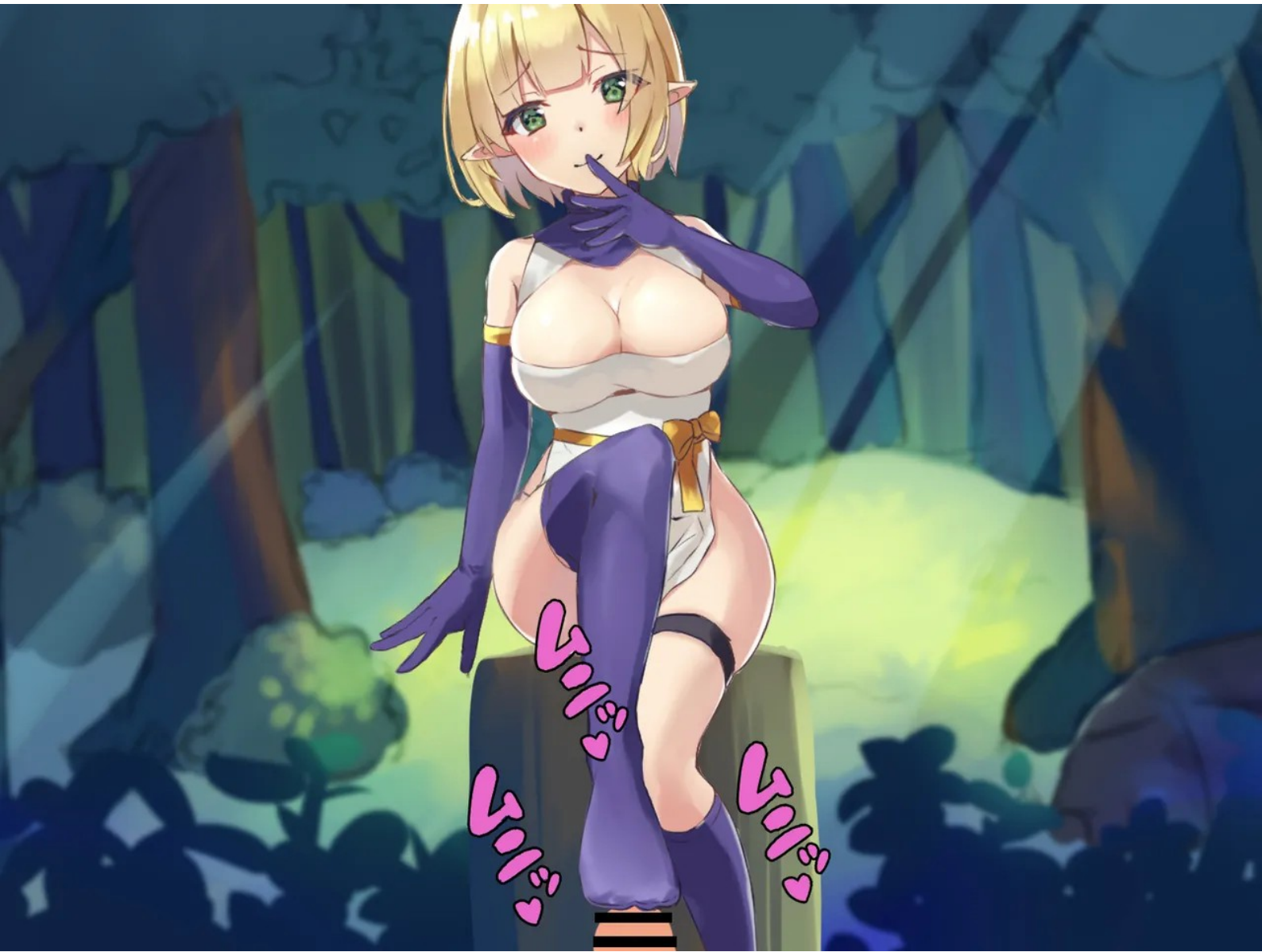






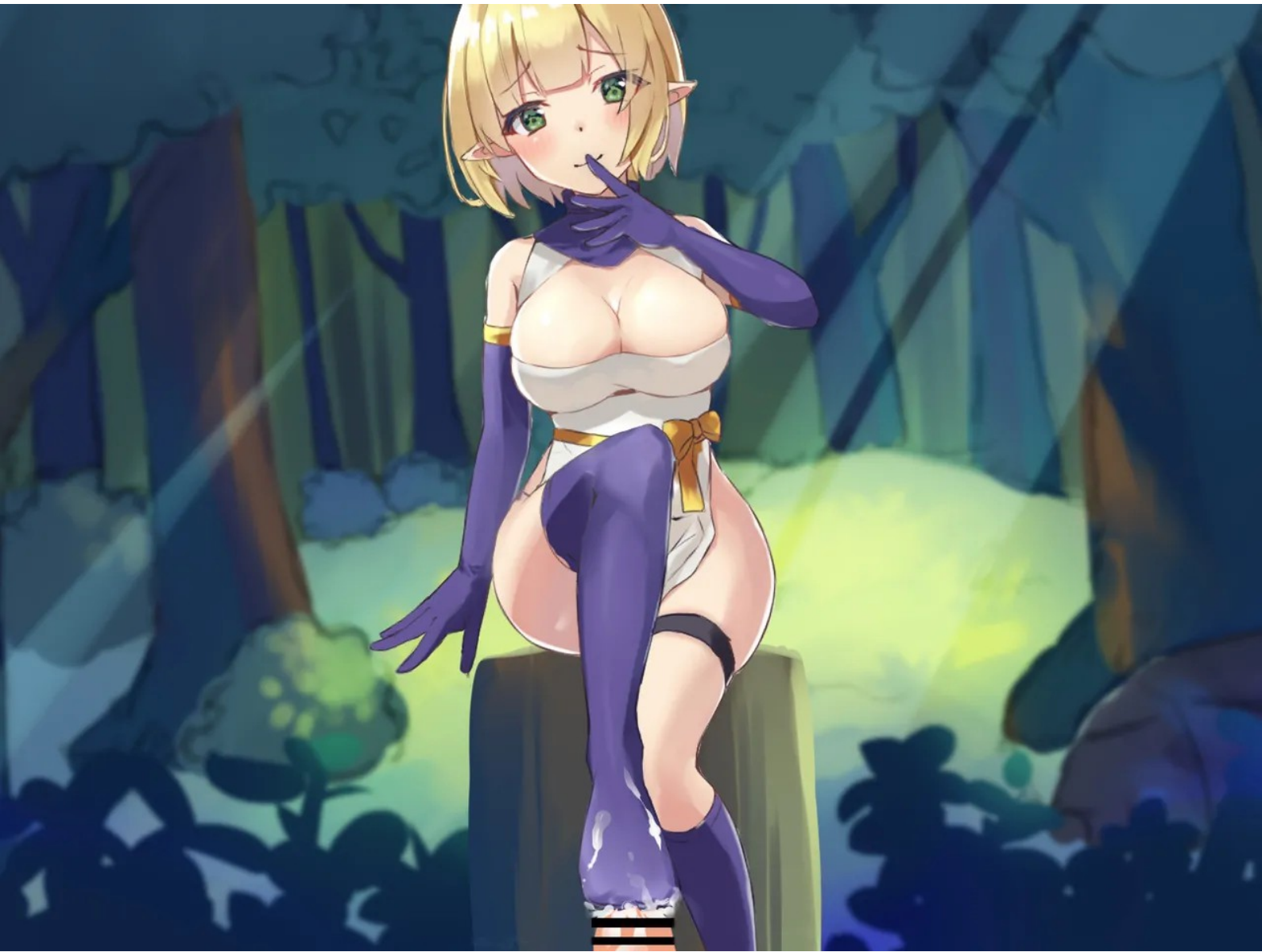


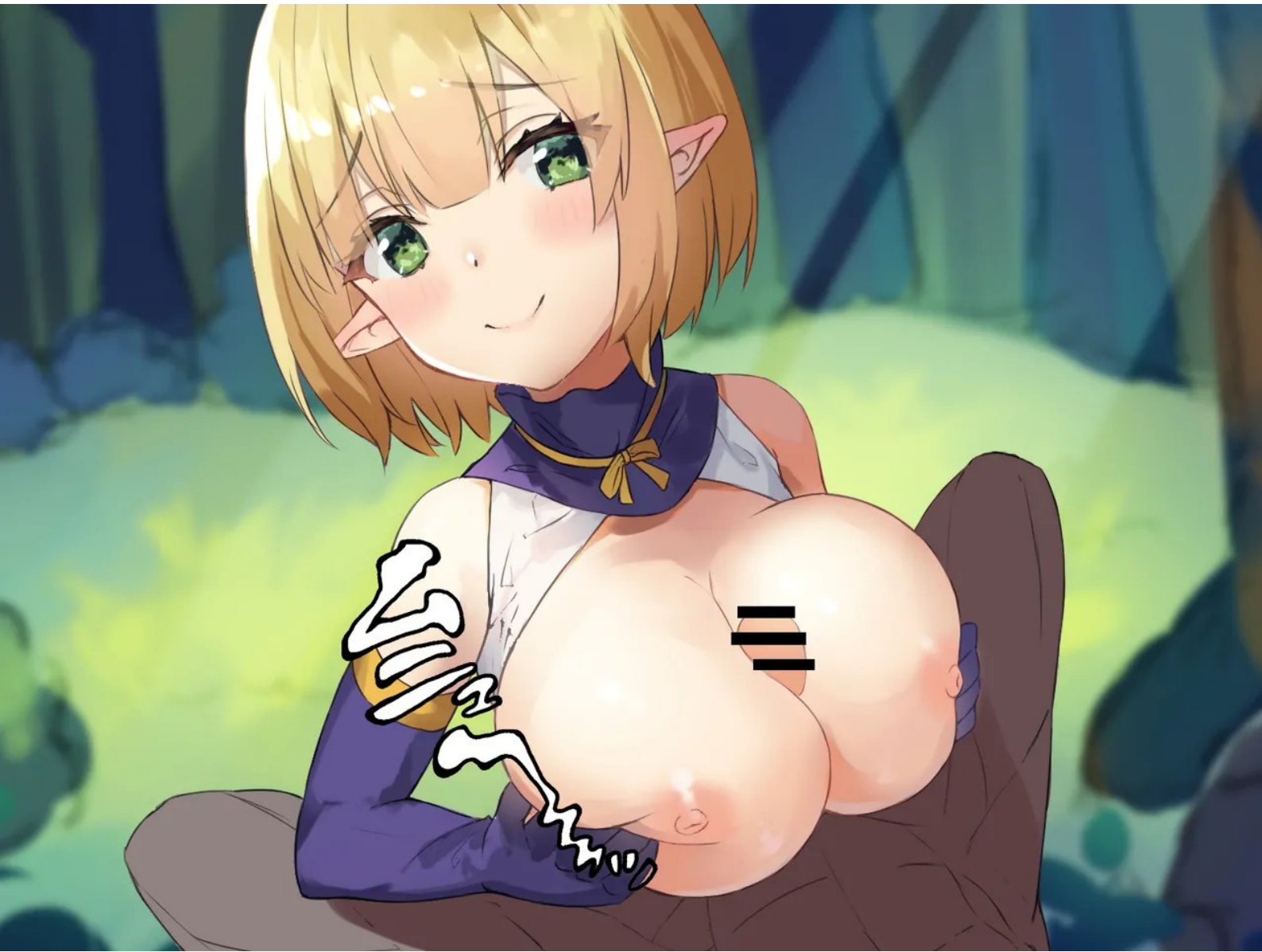




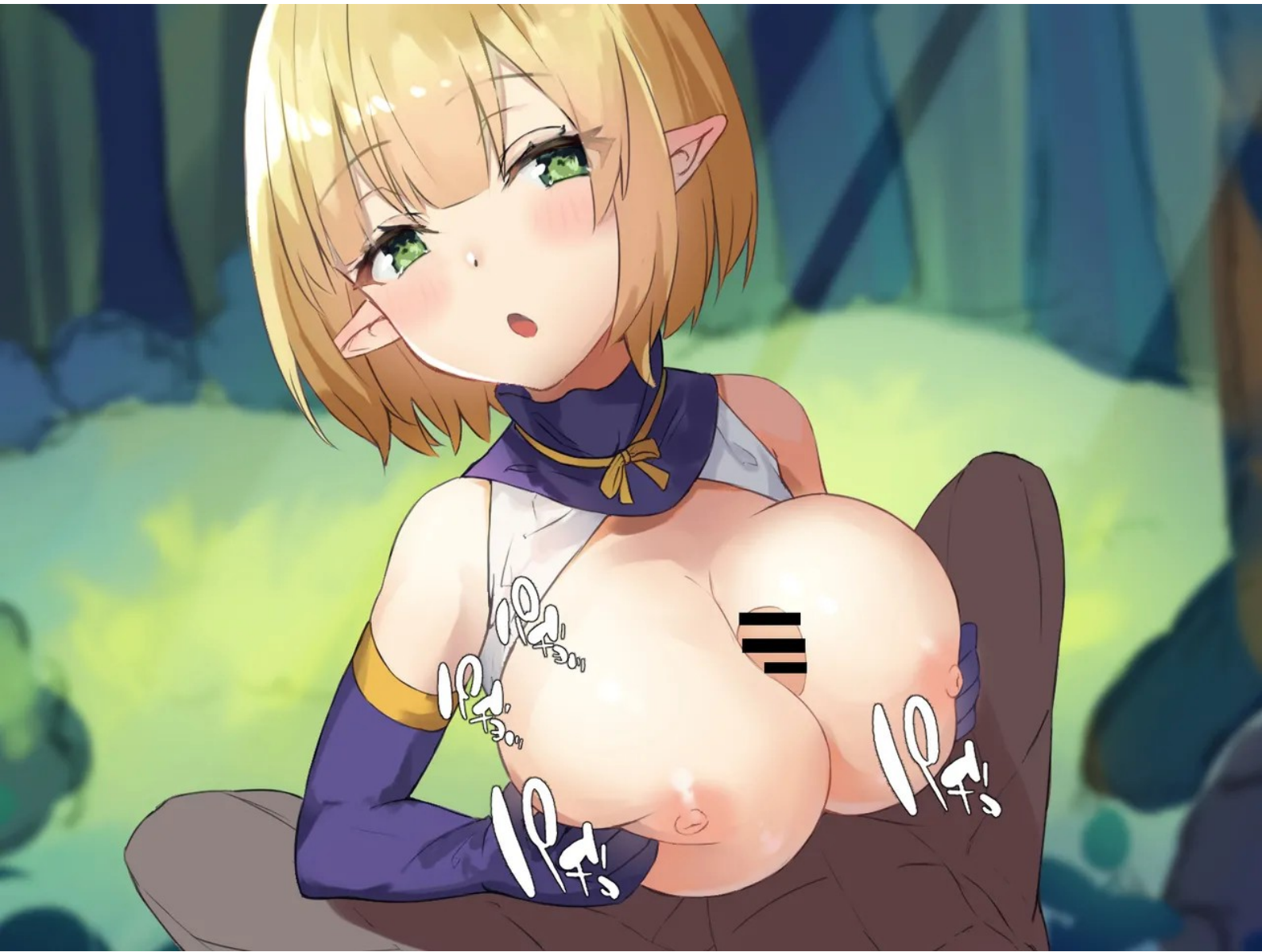














びゅん  
ちゅん  
ちゅん  
ちゅん

































